

13歳の子どもを16歳として登録、体が大きいから、見た目では分からない。」

「もっとひどいことは、日本の経済がよくなると、子どもたちは学校から姿を消すこと。工場に手が足りない時は、15-16歳の子どもは、もう既にマンパワーになる。」

「日本の課題は残業である、残業しないと辞めさせられる、家庭への時間が少ない。」

「就労時間の多さも、孤独感を生みだしている。」

「派遣業者は学校のオーナー、仕事場の提供者、アパートのオーナーである。」

「両親の就労時間は非常に多い、きつい仕事を12-13時間、そして、休日出勤や残業命令が入ると、日本人はそのまま帰るが、ブラジル人は残る、残らないと解雇されるから。」

「最も大きな問題は家族の崩壊、両親はばらばらなところで仕事をして、お互い別の家族を持ってしまい、残される子どもはほったらかし。」

「日本人とも同じだか、学校に参加しない両親を持つ子どもが問題おこしやすい。」

「学校の行事に参加しにくい、朝のパトロール、工場交渉して、パトロールが終わってから出勤する。」

「外国人が多い学校は、日曜日にPTA会合を開いている。」

「お母さんも働いているため、平日の学校行事に参加できない。あまり休むと、辞めさせられる。」

「ブラジル人の働く時間は多い。今は日本人も多いが夜勤はしない、(日本人)お母さんは大体家にいる(子どもがいるとき)。」

○ 日本社会における外国籍移住労働者の受け入

れ準備が不十分であることがもう1つの大きな問題であると語られた。

「日本社会にも敵意がある(hostile)、身体的な暴力は無いが“人を殺す”意味では様々方法がある。」

「ブラジル人も固まっているが、日本人も受け入れたくない、難しい。」

「ブラジル人は日本社会のことを知らないため、利用されているところもある、若いし、世間も知らない、特にドラッグ関係では。」

「ある意味、ブラジル人社会で孤立する方が保護されている状況もある。」

○ 日本の通常学校における外国籍児童の受け入れが不十分であるため、ブラジル人が上手く適応せず、日本語力も発展することなく、高学年へ進むことが難しくなっている。

「日本の学校も責任感が無い、どっちでもいいと言われる(勉強しようがしまいが、高校に進学するか、しないか)。」

「高校に行くブラジル人は少ない、仕事をする。中学校は義務だから、落第も無いし、大体皆行くが、ただ椅子に腰掛けている、すごいと思う、45分間、ずーっと腰掛けている。」

「学校も考える:“直ぐブラジルに帰るから、そんなに犠牲にして漢字を覚えさせなくても、遊ぶほうがよい”と。」

「若い子達にはチャンスが少ない、日本の学校に行っている子どもたちも夢が少ない。」

「学校側も、ブラジル人は日本人とは違うけど、その違いを尊重しなければならない。」

B) [質的調査] 若者を対象としたフォーカスグループインタビュー (FGI)

[滞在年数]

FGIに参加した生徒の平均的な大勢年数は約7年間であった。

[ブラジル・日本間の繰り返し滞在経験]

約40%が1回以上日本とブラジルを往復している経験があり、日本での滞在とブラジルでの滞在を繰り返している。また、1割程度が日本で生まれていることが分かった。

[学校経験]

約55%が日本の通常学校に通った経験があり、小学校低学年のみ、または中学校まで通った人もいた。その他は、日本在住中、ブラジル人学校のみに通っていると話した。

[話しやすい言葉]

言語の面では、特に内密な内容の場合、1割程度が日本語のほうが話しやすいと話し、その他は全てポルトガル語であると回答した。

[両親と過ごす時間]

全ての対象者の両親、父・母、または、どちらかいない家庭も、全保護者が働いていることが分かり、また、子どもが保護者より先に学校から帰宅することが分かった。帰宅後、最低1-2時間は一人で留守番、または、姉妹兄弟と過ごしている。

生徒の2割程度の保護者は交代勤務形態の仕事についており、夜はいつもどちらか家にいるように工夫し、昼勤と夜勤を互いに交代で仕事している。

[放課後や休日過ごし方]

全FGIの参加者の2割くらいはアルバイトや仕事をしており、その種類は「お弁当の配達」、「工場で機械の組み立て」、「と畜場(食肉処理する前段階で、

家畜を殺し、解体するところ)」などであった。

また、放課後や休みの日に「英会話」に通っている人が1割未満で、その他は家にいて、「家事の手伝い」、「寝ている」、「パソコンをやっている」、「兄弟姉妹の面倒を見ている」などで過ごしている。

そして、男女共に、そして、13-14歳からの約50%が週末は「朝帰り」し、主に「ディスコ」や「パーティー」に行くことが多く、その「パーティーやディスコが終わるまでいてもよい(女子、14歳)」と保護者に容認されている。その他は、夜は10時又または12時までの帰宅は容認されている。

[交友関係]

FGIの参加者の約9割程度が交友関係はブラジル人であると話し、1割が友人に日本人もいると話した。日本の学内の友人もいるが、5割はブラジル本国の友人である。

また、調査員から見たファッションセンスや芸能話題などは、ブラジル国のものであるが注目される。

[インターネット経験]

参加者の90%以上がインターネットの経験を持ち、主に「MSN」やインターネットコミュニティサイトの「ORKUT」などで、友人とコミュニケーションをするために使用している。そして、ネット上でのコミュニケーションの相手は、ブラジル国の友人やと学校仲間が多く、全てポルトガル語でコミュニケーションをとっている。

インターネット上では「ポルノサイト」や「ネット上の友達を持っている」などの経験もある生徒がいた。

そして、全体的に、ネットに繋がっている時間は1-4時間であった。

また、ほぼ全員が携帯電話を所持し、主な使い道は「メール交換」や「音楽のダウンロード」に使うと話した(「そう、メールが安いから、実際に話すより(男

子、16歳)。

[アルコールの経験]

FGIの参加者の6割くらいが家庭内で飲酒の経験があり、現在も、両親などが飲んでいるときに「試し」に少し飲むことが多いことが分かった。

そして、初めてアルコールを試した年齢としては10歳代の低年齢の時である。その種類は、チューハイなどアルコール濃度の低いものから、ビール、ワイン、ウイスキー、そしてアルコール濃度が45度もある、カイピリニャーやウォッカを使用するカクテルなども含まれていた。全体的に、飲酒について、容認的な環境であることが分かった。

[タバコの経験]

半分くらいの生徒は「試した」ことがあるが、そのほとんどは「嫌い」と話した。

「父に“試すか”と聞かれ、試したら“よくもあんなにまずいものを吸えるなと思った”(男子、13歳)。」

半数くらいの保護者がタバコを吸う習慣があるが、子どもたちは、今の年齢では、否定的な認識であることが明らかになった。

「タバコは両親が吸う。結果的に吸ってしまうのと同じ、最悪。私が小さいとき、祖父が吸っていた時、少し試した(女子15歳)。」

「叔父さんが吸う。一回試したが、嫌いだった(男子16歳)。」

「僕は、父が吸っていた時、「美味しくないから、試す?」と聞かれて、試したら、最悪だった(男子16歳)。」

「両親が吸う時に吸ったことがある。(女子15歳)。」

[ドラッグの経験]

ドラッグなどについては、“使用しているかどうか”の質問ではなく、“どのように思うか”、または、“聞いたことがあるか”、“どのようなものを知っているか”、“周りに使う人を知っているか”、のような内容で話題

を取り上げた。

参加者本人には経験のある人はいないと話していたが、周りにドラッグを使っている友達や親戚はおり、また、「駅周辺」などでドラッグを使っているグループなどを見たり、「誘われたりもした」と話した。

知っているドラッグの種類については“マリファナ”、“コカイン”、“ヘロイン”、“シンナー”、“クラック”などの名前がでた。

また、ドラッグについては学校で習い、体への害について習った。

「学校でドラッグについて授業がある(女子、15歳)。」

[交際の経験、態度、考え方]

FGIの参加者の約9割に交際の経験があり、主に短い期間の“カジュアル”なボーイフレンド、ガールフレンドであったが、中には「長い間の恋人」を持ったことある参加者がいた。

そして、交際が容認される時期については、「大体13-14歳ではじめてもよい」と言う考え方が多かった。しかし、本格的には16-18歳くらいであると言う考え方が多かった。

[セックスへの態度、考え方]

全体的に性交渉については容認的であり、開始年齢や時期については、決まった基準は無く、個人の価値観に委ねるという意見が多かった。

また、“保護者からどのようなアドバイスがあるかなどについて”聞いたところ、全体的に性交渉に否定的ではなく、むしろ、禁じたら隠れてするので、はじめから許可をして、子どもが性交渉を始めたとき、保護者に話せるようにする、と言う考え方であるということが参加者から受け取られた。そして、性交渉に関して最も心配することやアドバイスを貰うことは「妊娠しないように、させないように」であることが分かった。しかし、多くの場合は、“気をつけるように”、“責任持つてするように”などのアドバイスを貰っているが、具

体的に、コンドームを使うようにといった、“コンドーム”と言う言葉は余り出なかった。

また、性交渉時における最も心配することについては、男女で意見が分かれることもあった。

「(初めてのセックスは)流れに任せる(男子 16 歳)。」

「…14 は若すぎる、予定外のことが起きるかも(女子 14 歳)(予定外のことは妊娠のことである)。」

「特に年齢はない、2 人がそのときが来たと感じたとき(男子 15 歳)。」

「…責任持てないと…(男子 13 歳)(妊娠しないように)。」

「…思春期を飛ばしてはいけない、妊娠すれば大人になってしまう。(女子 15 歳)(セックスする時に妊娠しないようにすることが大事)。」

「そのチャンスがあったとき…(女子 15 歳)。」

「(母親に)気をつけるように言われる…(女子 14 歳)(妊娠しないように)。」

「父はダイレクト、早く祖父になりたくないからね…(男子 16 歳)(妊娠させないように気をつける)。」

「…物事にはその正しい時期がある、まだ若いから…(女子 14 歳)(これは、セックス開始ではなく、母親になることを意味する)。」

「孫の面倒は見たくないから…(男子 16 歳)(避妊するように)。」

「妊娠したら、殺す(女子、15 歳)(だから、気を付けるように)。」

「(性交渉の時、最も心配すること)あ、それはエイズだろ、死ぬから、妊娠は死なないでしょう(男子 14 歳)。」

「(性交渉の時、最も心配すること)それは妊娠だ、誰が9ヶ月間お腹を大きくして、犠牲になるの(女子 14 歳)。」

[困ったときの相談相手]

困った時の相談相手はいるか、又は、誰か、と言う話題では、“友人”、“友達”の次に“母親”と“兄弟・

姉妹”が上げられたが、最も内密な話は、主に学校内の“友人”同士で話し合っていることが分かった。

また、参加者のなかで、現在困って、辛いと思うときについて話しをしたが、「ブラジルに帰りたいと思うとき(男子 18 歳)」と言う発言が代表的な発言であると考えられる。

[将来について]

全体の9割くらい、将来は“大学に行きたい”、と言う欲求を持っていた。そして、その約4割が「ブラジルに帰って大学に行きたい」を話したが、2割程度は「日本がよいが、勉強のためブラジルに行くしかない」と言う葛藤をもって、1割程度が「どっちでもよい」と話した。

将来について、ブラジルに帰るか、日本に残るかの葛藤が目立つ。

ブラジルでは言葉の面で、“勉強、つまり、大学進学”はよりスムーズにいくが、生活の面では経済的や治安の不安がある。

一方、日本に残ると言う選択については、“勉強”より、“仕事”へアクセスしやすいことから、“物が手に入る”、そして治安の良さから“自由である”と言う側面がある。

この2つの選択肢にゆれている子どもの顔が調査員の印象に残った。

「ブラジルに行って、テクノロジーの大学に行きたい(男子 16 歳)。」

「分からないけど、ブラジルに帰って、グラフィックス関係を勉強したい(男子 17 歳)。」

「僕は今年中に帰って、3年生を向こうでして、天気科学を勉強したい(男子 16 歳)。」

「自分の職についていたい、2つ考えているが、ひとつは情報。ブラジルで勉強したい。家族と暮らしたいし…(女子 15 歳)。」

「日本のほうが、お金はもっと価値がある、(物価が)高いけど、貯金も出来る…今は、まだ迷っているけど、成功すれば、日本のほうがよい(男子 13 歳)(経

済的に)。」

「バイオロジーを勉強したい。ブラジルでも、日本でも(女子14歳)。」

「ブラジルに帰るか、日本に残るかは、ブラジルの状況による…日本ではもっと色々簡単に買える、車とか。ブラジルは危ないし…(女子15歳)。」

「まだ将来のことはわからない。何をしたいか分からないが、やりたくないことは「工場で働くこと」(男子18歳)。」

「日本で勉強しているが、現実にはブラジルに行くしかない(男子15歳)。」

「勉強をしなければ、工場で働くしかない。(男子18歳)(日本語を含めて、日本の大学など高等教育)、「本当に大学にいきたいなら、ブラジルに帰るしかない。(男子15歳)。」

「大学を卒業したいことだけは分かる。工場勤務だけはしないように両親から言われる。(男子15歳)。」

「私はファッションとかが好き、美容関係、日本で勉強したい(女子15歳)。」

「僕も、大学に行きたい。大学を卒業していないと、ブラジルでは仕事がない。(男子13歳)。」

「僕はまだ分からない、大学か、豊田の研修か。したくないことだけは知っている、工場に戻りたくない。(男子16歳)。」

「小児科医になりたい、子どもがすきから。ブラジルで。(女子15歳)。」

「大学にいく。弁護士になりたい、ブラジルで。歴史とか地理がすき。(女子14歳)。」

「僕も、家族と職を持ちたい。サッカー選手になりたい。でも、厳しい(日本では)。僕、ゴールキーパーだ。(男子16歳)(現在、サッカークラブに通っている)。」

「僕は、エンジンの整備士になりたい、何処でもいい、日本、ブラジル(男子16歳)。」

[日本とブラジルへの想い]

ここでは、自由に“日本に住んでいる”、または、“ブラジルに対する想い”、などについて皆で話をし

た。

“ブラジルで大学に行く”が最も多い“将来の夢”であることに照らし合わせると、いかに、子どもたちが葛藤のなかで日本、ブラジルと言う2つ違う環境や現状を生きていることが分る。

「ブラジルは余り知らない、パン屋さんとスーパーくらい(男子13歳)(だから日本のほうがよい)。」

「僕も、学校にも一人で行けなかった(男子16歳)(日本では1人で外に出る)。」

「日本のほうが仕事を見つけやすい、少しだけでも言葉が出来れば、少し読めて、少し書いてそして理解できれば、直ぐ仕事もあるし(男子16歳)。」

「家族は結構日本にいるけど、皆バラバラ(女子15歳)。」

「そう、よい経験、言葉、違う文化を知ることが出来る。でも、本当は、余り好きでない、一人だから、孤独だよ(女子14歳)。」

[エイズ関連について]

エイズ関連の知識は曖昧で、基礎教育で習った内容はほとんど忘れられている。また、年に1回の講演会なども、時が過ぎれば、記憶が曖昧になってくる。

そして、エイズ関連の疑問についての質問等は皆の前ではなく、個人的に話すほうが質問しやすいことが分かった。

「HIVはウイルスで、エイズはあの病原体、体の中にある…どうだったっけ、病気を移すの…(男子14歳)。」

「あ、よく説明できないけど、大体その通りだ(男子15歳)。」

「私はあまり覚えていない、なんか、症状がどうのこうのと…(女子14歳)。」

「ブラジルでも、中学校で習うけど、忘れた…(女子14歳)。」

「僕は講演会を聞くけど、その場では聞けない、後で個人的に聞く、からかわれるから(男子15歳)。」

「…個人的なことだから(皆の前で聞けない)(女子14歳)。」

[エイズ教育のあり方について]

教科書に載っているもの以外に、講演会などが望ましいと言うことと、アドバイスや質問する時は年配の人がよく、一方、色々オープンに話せるのは、親しい同年代の人であることが抽出できた。

「もし、親しい人であれば、同年代でも聞いてもいい(女子14歳)。」

「僕は年配の人、もっと人生経験があるから(男子15歳)。」

「同年代の人とのほうがオープンに話を出来るかも(女子14歳)。」

「質問をする人と色々体験をシェアする人は違うと思う(男子14歳)。」

[量的調査] 在日ブラジル人学校を対象としたエイズ教育実態把握調査

ブラジル人学校を対象としたアンケート調査の回収は FAX、メールや郵送で行い、回収率は約 52% (25校中13校)であった。アンケート調査記入担当者は学校のオーナー兼校長先生、校長先生、または教頭先生であった。

[学期と休みの組み立て]

13校中11校は、保護者の労働条件に合わせて、学校の休みを企業の休みにあわせている。すなわち、子どもたちの休みも、年末年始、ゴールデンウィーク、お盆・夏休みとなっている。その他、2校は日本の学期に沿って組み立てているが、春休みや、夏休みなどは学校を開放して、子どもたちが自由に学校に行けるようにしている。

[保護者と先生のミーティング(PTミーティング)への保護者の参加]

全ての学校で年に4回はPTミーティングを実施しており、保護者の参加率はミーティングの内容や日程などに大きく左右され、また、学校によってその参加率が大きく変わるが、平均的に47%であり、最も高い参加率は90%、最も低い率は15%であった。

[生徒数]

全体的に、基礎教育(小中学校)の生徒数が多く、

高学年に行くにつれ、生徒数が少なくなっている。回答した13校をあわせて、基礎教育の生徒数は1498人で、高校の生徒数は209人である。これは、年数の浅い学校であるため、基礎教育の生徒がまだ高校に達していない、と言うこともあるが、既に高校3年生までの教育を提供している学校での進学率は、平均的に16%にも満たなかった。

[生徒の状況]

「移動・転校」に関しては、全体的に移動が目立ち、約10%の生徒が退校し、新たな10%前後が転校してくるという状況である。

「携帯電話」の所持率は、平均的に約65%であり、高学年を担当している学校ほど、所持率が高い(90-98%)。

そして、「両親とはなれて暮らしたことがある」と言うことについては、平均的に約10%の生徒が1年以上両親のどちらかと離れて暮らした経験があるという結果が得られた。

[エイズ関連教育の実態]

“性教育”、“ドラッグ”、“タバコ”、“飲酒”については93%(12校/13校)の学校が基礎教育で取り扱っていると回答し、85%(11校/13校)が“HIV/STD”及び、“思春期での妊娠”について取り扱っていると

回答した。

そして、複数回答で、その教え方としては、前記のテーマを教えている学校の全校(12校)が教科書に載っている内容を扱っている。そして、約2.5割(2-3校/12校)が教科書以外にプリントなどの配布や、年に1-4回程度の外部講師の講演会や学校内の先生による教科書外のワークを提供している。つまり、約8割は教科書に載っているもののみを教えていることになる。ちなみに、“性教育”について、教科書には基礎的な生殖機能のみ記載され、エイズ関連については簡単にSTDの名前と主な症状、及びHIVに

ついてページの1/3程度の記述である。

[学校が生徒について課題と感じているテーマ]

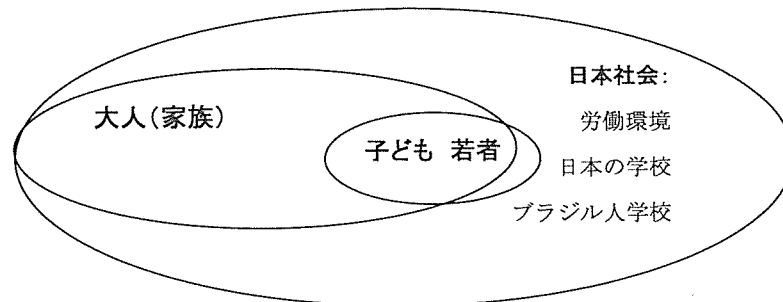
アンケート調査票の最後に、“学校側として生徒に関する重要課題”について書けるように自由記載欄を儲けた。その結果、ほぼ同じ頻度で最も多かった課題としては「薬物」、「思春期での妊娠」、次に「自尊心の欠如」、そして、その他「将来への夢の欠如」、「友情について」、「暴力」、「日本の文化、法律」などもあげられていた。

【まとめ】

はじめに、全体的な社会構成として、若者・子どもと言う“個人”の存在の周りには大人たち、つまり、家族があり、そして、子どもたち及び家族を大きく囲む

ように、日本社会の現状がある。この3つのスタンスの違う文脈が複雑に絡み合い、一人の若者の人生に影響を及ぼしている。(図4)

(図4) 【在日ブラジル人若者の現状】



『日本社会』

日本社会における状況としては大きく分けて、3つのレベルでの実態が判明した。

1つは《ブラジル人学校》の実態がある。つまり、エイズ教育などは不十分であり、予防行動へ繋がる対策は乏しいことが分かった。

① 8割程度のブラジル人学校が必修において性教育の基礎のみ(7-8年生で生殖機能など)を実施している。

- ② 3割程度の学校が必修外で、HIV 予防教育を実施(年1回の講演実施)している。
- ③ 教員から見た生徒の課題は「妊娠」、「ドラッグ」、「自尊心の欠如」と言うテーマが最も多く寄せられ、HIV 感染への脆弱性が非常に強い集団であることが示唆される。

もう1つ、は《日本の通常の学校》の実態である。外国籍児童の受け入れに関して積極的な取り組み

を行っている学校もあるが、多くの日本の通常学校はまだ、受け入れ態勢が整っておらず、その結果、多くの児童が学習に力を入れることが出来ず、そして、学校と言うミニ社会に適応せず、本舞台の社会への進出が難しくなり、多くの子どもたちが犠牲になっている。

さらに、その全体の状況を取り巻く実態として、『日本社会全体』の外国籍移住労働者の受け入れが不十分な体制である。実際に一緒に生活する地域住民における説明、心の準備期間、受け入れ態勢の整備などが出来ていないなかで、千人、1万人といった違う文化・習慣を持つ外国籍の人々が住み始めるのは、非常に未経験なことであることから、“拒否”と言う、人間としての当然な防衛反応が出てくる。

そして、最も重大な影響を与えているのが『労働市場や雇用形態』であることが明らかになった。雇用形態が不安定であるため、外国籍の労働者はつねに生活の不安を抱え、限りなくその不安を軽減するため、雇用者の全ての条件に従っている。具体的には、男女共に同じ条件での残業を含む長時間勤務、夜勤・昼勤の交代勤務、無休暇体制、派遣先の変更に伴う移動、社会保障アクセスへの壁などのような状況下で仕事を続けていることが現状である。

その結果、夫婦の間での距離が生じ、また、子どもたちとの時間が少なく、子どもたちの学校生活などへの参加もできず、親子の距離をさらに深刻なものにしていることが考えられる。

『大人、保護者』

子どもへの影響力が最も強く、子どもに最も近い立場にある大人たち、家族の現状は：

- ① 金銭が優先で、物を買うことに執着している。
- ② 模範的な存在が少なく、子どもたちから両親が尊敬される存在になっていない。

- ③ 大人たち自身も日本社会に入らなくてもよい、と言う価値観から子どもたちの日本社会への進出などに積極的ではないため、子どもたちへの選択肢が幅の狭いものになっている。
- ④ 日本社会とのつながりが強い子どもたちと日本社会に適応していない保護者たちとギャップが生まれている。また、家庭崩壊、つまり、結婚・離婚を繰り返し、子どもたちに対する精神的に安定した家庭環境が壊れてきており、子どもが思春期にいたるとき、自己アイデンティティ形成の葛藤のなか、頼れる両親の存在が薄い。
- ⑤ さらに、保護者たちは、学歴が無くても工場で仕事すれば収入の面では困らないという考え方などを持ち、長い目で子どもたちの将来を考えていない、例えば、仕事が出来ない年齢に足した時。
- ⑥ また、将来設計の不安定さがあげられ、日本とブラジル間の移転を繰り返すことで、その移動に伴われている子どもたちがやがて思春期を向かえ、さらに、成人していくが、子どもの将来への生活基盤が築けていないのが現状である。
- ⑦ そして、大人自身も自尊心の低い精神的状況であると考えられる。何故ならば、日本語力が低いため、常に通訳など、子どものように、誰かに頼る生活や、支えられていた社会的ネットワークから切り離され、大人ではあるが、何処にいるか分からない、また、買い物、娯楽、すべてが自分の慣れていたものと違う状況におかれている。また、雇用形態や、ブラジルの親戚や家族から離れることで生じる孤独感も自尊心の低さに繋がることも考えられる。

『子ども・若者』

そして、子ども・若者の現状としては：

- ① 両親が仕事をしているため、そして、学校でも勉強以外の活動など、例えば、クラブの活動が無く、放課後は家で一人で過ごすことが多い。

- ② インターネットの利用時間は長く、ほとんどの子どもが利用している(大体 1-4 時間くらい)。
- ③ 交友関係などはほとんどがブラジル圏であり、インターネット上でのコミュニケーションをとることが多い。
- ④ また、ファッションセンスや、芸能話題はほとんどがブラジルのものになっている。
- ⑤ 低年齢から朝帰りが目立ち、保護者もそれを容認している。その理由のひとつとして、“日本は安全”と言う認識があるからである。そして、子どもたちも、同様な認識を持っていて、“日本は自由”と言う感覚が生まれている。
- ⑥ 約 9 割の子どもたちが将来は“大学に行く”、“好きな勉強や仕事に就きたい”と言う夢を持っているが、実際に、生活や特に学力の面では、その夢が現実にならないことが分かっている場合も多く、また、現在、日本・ブラジルと言う2つ世界の存在に対して、葛藤の中にあることが明白になった。
- ⑦ そして、生活基盤の不安定さが明白になり、つまり、4 割が 1 回以上ブラジルと日本を往復して、日本の生活と、ブラジルでの生活を繰り返している。これは、言語、文化、交友関係、社会環境など、全く違う 2 つの生活パターンを経験していることになる。そして、特に、言語力不足の面からみて、多くの場合はこの経験はプラスには働いていない。
- ⑧ 全体的に日本のほうが安全で自由、そして生活の面では困らない、チャンスが多いなどがあげられ、しかしながら、「孤独」、「ブラジルがいい」などの話も抽出された。また、13-18 歳の参加者で、平均 7 年間日本に滞在していることは、日本での生活が長いことになるが、彼等にとって“教育”を続けるということが、人生でより多くの選択

肢を選べれるようになることを意味することから、その“教育”を今、選択する場合、ブラジルに帰る・行く、と言うことに繋がる。

【性関連の意識・行動の現状】

- ⑨ 交際経験は多く、当研究の対象者の約 9 割が交際の経験を持っていた。
- ⑩ そして、性交渉の開始に関しては、若者たち自身が容認していて、“時期が来たら”、と言っており、はっきりとした基準はない。
- ⑪ また、保護者も子どもたちの性関係を容認していて、妊娠への注意のみで、性関係を持つことに関しては否定的ではない。
- ⑫ 全体的に避妊意は低く、出産したら親が育てるという責任感のほうが目されている。
- ⑬ 思春期の出産経験者が周囲に多く、半分以上は身近に同じ年齢の若者たちが妊娠・出産している。また、対象者の保護者たちの年齢もまた若く、同じ思春期で彼等を出産していることが分かる。そして、人工中絶も多く行われていることが分かった。
- ⑭ HIV/STD 予防意識はほとんど無く、主に“妊娠”が心配である。しかし、避妊としてはコンドームも身近な存在ではなく、“コンドーム”という言葉もほとんど出なかった。そして、学校で習った性教育の基礎はほとんど覚えておらず、学外講師の講演内容も、その時は面白いがすぐ忘れる、と言う現状であった。

【考察】

一人の人間が“個”のみでは生きていけないという事実から、個人を取り巻く状況はその個人の生き方、価値観、全ての人生に重大な影響を及ぼすことは広く知られている。また、どのようにその個人と周りの環境が繋がるかや、関係の質、そして、人生へ方向性に非常に大きい影響を及ぼす。

さらに、HIV 予防行動を左右する様々な要因があり、そのひとつが脆弱度である、と 1996 年に Jonathan Mann が定義している。なぜ人々は予防行動を取れないのか、コンドーム使用が最も有効的な予防方法であると知りながら、その知識を行動に移せず、HIVに感染してしまう。このような事態をみて、脆弱性と言う概念が見い出されたが、その脆弱性は 3 つのレベルによって構成されている。その全ての 3 つのレベルが同時に同じ方向に向いていないと、HIV 予防は実現できないと考えられる。

その脆弱性の 3 つのレベルは、簡単に、

- ① 個人的側面：健康に関する価値観、HIV感染への認識、正しい知識、健康でいたい意欲度、満足度の高い自己、生産的な人生 (productive life)、など
- ② 社会的側面：グループの規範、職場や学校などの規範、社会基盤の様々な整備 (安定した住居、満足が得られる仕事、市民である認識と市民であると受け入れられていることについてのフィードバック)、など
- ③ 政治的側面：これは国や行政の政策そのものである。国政策と言う側面では、外国籍移住労働者に関して、健康保健加入への難しさ、外国籍の人々の日本の医療への不信感、雇用形態によって社会保険が適応できない状況や、言葉の面での障壁を取り除くためのシステムの不備、などが挙げられ、この場合、一般的に、日本の社会が外国籍の移住労働者の社会的・身体的健康についての意識は未

熟であると言える。⁴⁾

従って、在日ブラジル人の若者に関しては、個人の HIV 感染への認識の低さ、家族の不安定さ、そして、社会の厳しい状況、この 3 つの要素が絡み合い、この集団が置かれている状況は、間接的に HIV への感染に対し非常に脆弱な立場であることが示唆される。

HIV 予防の観点から、このように総体的に弱い立場にいる人は、効果的に HIV 予防行動をとりにくい状況であることは多く知られている。

従って、今後の HIV 予防プログラムは HIV 関連の直接的なメッセージに加えて、若者自身の自尊心を高め、思春期のエネルギーを分散し、自己成長に繋がるような予防教育プログラムであることが必要であると考えられる。

例えば、他の NGO は様々な活動を展開しており、HIV 予防を目的とするものではないが、間接的に子どもたちの自尊心を高め、また、様々な活動の場を提供するによって、

○ 放課後に何らかの活動をすることによって、子どもたちの現状を改善できることが分かった：

「ダンス、カポエイラなどのワークショップを提供し、若者がフェスタなどを始めてから、ブラジル人の犯罪は 3 番目から 10 番目に落ちた (群馬県)。」

「他の場所でボランティアをやって、サッカークラブを手伝っている、そこには遠くから子どもが集まる、皆寂しいの (群馬県)。」

○ 外国籍児童の受け入れに積極的な日本の通常の学校では、徐々にブラジル人の青少年の日本社会への進出も見られるようになってきているところもある：「日本の学校で勉強し、継続した子は自分の道を進んでいる (群馬県)。」

【若者を対象とした今後の研究計画】

以上の内容から、2007年度の研究計画は次の通りである：

- ◎ ブラジル人学校を舞台に、HIV予防教育プログラムを構成し、そして、教育のプロフェッショナルである、学校の先生、また、教育を受ける若者たちの一緒にこの予防教育プログラムを作ることが重要である。
- ◎ 従って、今後は、学校・若者・研究者でチームを作り、教育プログラムを作っていく予定である。

具体的な計画としては：

- 1－ 2007年4月に量的調査を実施予定である。この量的調査におけるアンケート調査票に関してはF
GIやIIで得られて情報に基づいて作り、現在、15人の若者を対象にパイロット的に実施・評価・修正を行った。(最終版を添付資料として添付)

このアンケート調査の対象者は、在日ブラジル人学校協会に加入しており、かつ、13歳以上の生徒が通っているブラジル人学校全てに対してアンケート調査を依頼する予定である。

- 2－ FGI, II, アンケート調査の結果をもとに、学校関係者へのフィードバック、予防教育プログラムの基礎知識を提供すると共に、より各学校の現状に沿った教育プログラム作りへの協力を呼びかける予定である。(学校の先生などを対象とした講演会は6月に実施予定)

- 3－ 平行して、若者を募集し、日本におけるHIV関連情報提供を目的とするホームページ作成チームを作る予定である。

参考文献：

- 1) 「在留外国人統計」平成18年版、財団法人入管協会。
- 2) 「HIV感染症の動向と予防介入に関する社会疫学的研究」班 平成14年度報告書
「HIV感染症の動向と予防介入に関する社会疫学的研究」班 平成15年度報告書
「HIV感染症の動向と予防介入に関する社会疫学的研究」班 平成16年度報告書
- 3) 「日本語指導が必要な外国人児童生徒の受入れ状況」平成17年度報告書、文部科学省
- 4) CARAM Asia, State of Health of Migrants, 2005 report (Access to Health)

本研究関連発表：

- 1) 岩木エリーザ、小堀栄子、木原雅子、木原正博、「滞日ブラジル国籍住民のHIV性感染リスク行動とその関連要因」第20回日本エイズ学会学術集会・総会、2006年11月

Levantamento sobre Atividades de Educação Preventiva em Saúde dentro da Escola.

O Grupo CRIATIVOS, vem desenvolvendo atividades de prevenção em HIV/DST há cerca de 10 anos para a comunidade latinoamericana residente neste país. E de alguns anos para cá, vimos atuando com palestras e atividades de prevenção em algumas escolas brasileiras. Queremos aproveitar esse momento, para antes de mais nada, agradecer profundamente o apoio que temos recebido de algumas escolas, abrindo suas portas para falar de um assunto, que muitas vezes, ainda causa preconceito e toca em temas bastante delicados para todos nós.

A Aids afeta mais de 45 milhões de pessoas no mundo, sendo cerca de 170 mil no Brasil, e no Japão, a epidemia cresce a cada ano, sendo o único país desenvolvido onde a epidemia não está controlada.

Dentro deste contexto, temos a importante tarefa, de tentar evitar que nossos filhos tenham que conviver com o HIV, pois, apesar de ser hoje uma infecção controlável, considerada crônica, ainda é fatal e conviver com HIV não é uma caminhada nada fácil.

Nosso gol é evitar a infecção pelo HIV, mas no meio do caminho, estamos evitando a gravidez precoce e outras DST, também, provendo um momento de reflexão sobre o futuro e qualidade de vida, tentamos alertar para outros temas, como o uso de drogas lícitas e ilícitas, planejamento do futuro, etc.

Neste momento, necessitamos fazer um levantamento prévio, que somando as avaliações dos trabalhos anteriores, realizados em algumas escolas, servirão de base para um programa de atividade que atinja as necessidades dentro da realidade das escolas brasileiras no Japão

Assim, pedimos encarecidamente, **10 minutos** do seu tempo, sabendo da enorme quantidade de tarefas a serem cumpridas, para o preenchimento deste questionário. O preenchimento é simples, e não obrigatório.

Este questionário não tem finalidade avaliativa, somente de recolhimento de dados.

O nome da escola não será divulgado, sendo codificado para que não possa ser identificado por outros, além do tabulador dos dados.

Responsável pelo manuseio dos dados: CRIATIVOS - Centro de Referência e Suporte em HIV-DST.

Esta atividade está sendo executada pela NPO CRIATIVOS, e conta com apoio do Grupo de Estudos Sócio-epidemiológicos do Ministério da Saúde e Bem-estar e do Trabalho do Japão, Associação das Escolas Brasileiras no Japão, Embaixada do Brasil.

Por favor, após o preenchimento, devolver utilizando o envelope em anexo já selado. Ou, poderá ser enviado via FAX, no número 045-360-2093. Em ambos os casos, a correspondência irá diretamente para o Grupo CRIATIVOS.

PRAZO DE RECOLHIMENTO: DIA 30 DE OUTUBRO.

Agredeço antecipadamente sua atenção e colaboração,
Elisa Iwaki (Coord. Geral)

Japão, outubro de 2006.

Por favor, marcar com um X dentro dos () ou escrever no campo destinado.

Dados Gerais:

- 1- Data de preenchimento deste questionário: _____ de novembro de 2006
- 2- Nome da Escola: _____
- 3- Nome de pessoa para contato: _____
- 4- Telefone de contato: _____
- 5- FAX de contato: _____
- 6- E-mail de contato: _____

① Como é o seu ano letivo (aulas e férias): ex.: jan à mar; abr à jun:

1. Aulas: de _____ à _____; de _____ à _____; de _____ à _____; de _____ à _____
2. Férias: de _____ à _____; de _____ à _____; de _____ à _____

② Número de alunos por série:

1. Fundamental: 1º. (_____ alunos), 2º. (_____ alunos), 3º (_____ alunos), 4º (_____ alunos).
5º (_____ alunos), 6º (_____ alunos), 7º. (_____ alunos), 8º. (_____ alunos)
2. Médio: 1º (_____ alunos), 2º (_____ alunos), 3º (_____ alunos).

③ As reuniões de pais e mestres são realizadas nos meses de _____, _____, _____, _____

④ Qual a porcentagem de comparecimento dos pais? \pm _____ %

Temas Trabalhados na Escola:

⑤ A sua escola trabalha com os temas abaixo?

- | | | |
|---|----------|----------|
| 1. DST/Aids: | ①() Sim | ②() Não |
| a- No caso de SIM, para qual série: _____ | | |
| 2. Saúde sexual e reprodutiva: | ①() Sim | ②() Não |
| a- No caso de SIM, para qual série: _____ | | |
| 3. Gravidez na Adolescência: | ①() Sim | ②() Não |
| a- No caso de SIM, para qual série: _____ | | |
| 4. Drogas ilícitas: | ①() Sim | ②() Não |
| a- No caso de SIM, para qual série: _____ | | |
| 5. Cigarro: | ①() Sim | ②() Não |
| a- No caso de SIM, para qual série: _____ | | |
| 6. Álcool: | ①() Sim | ②() Não |
| a- No caso de SIM, para qual série: _____ | | |
| 7. Outros: | _____ | |

⑥ Qual o tipo de atividade desenvolvida para tratar dos temas citados? (pode marcar mais de 1 resp.)

1. DST/Aids:

- ①() Tema inserido na disciplina
- ②() Distribuição de material de leitura extra
- ③() Palestra de profissional externo (qual a frequência?_____ vezes ao ano)
- ④() Atividade extra-curricular, oficina, com prof. da escola (_____ vezes ao ano)
- ⑤() Atividade extra-curricular, oficina, com profissional externo (_____ vezes ao ano)
- ⑥() Outros: _____
- ⑦() Não foi trabalhado este tema na escola

2. Saúde sexual e reprodutiva:

- ①() Tema inserido na disciplina
- ②() Distribuição de material de leitura extra
- ③() Palestra de profissional externo (qual a frequência?_____ vezes ao ano)
- ④() Atividade extra-curricular, oficina, com prof. da escola (_____ vezes ao ano)
- ⑤() Atividade extra-curricular, oficina, com profissional externo (_____ vezes ao ano)
- ⑥() Outros: _____
- ⑦() Não foi trabalhado este tema na escola

3. Gravidez na Adolescência:

- ①() Tema inserido na disciplina
- ②() Distribuição de material de leitura extra
- ③() Palestra de profissional externo (qual a frequência?_____ vezes ao ano)
- ④() Atividade extra-curricular, oficina, com prof. da escola (_____ vezes ao ano)
- ⑤() Atividade extra-curricular, oficina, com profissional externo (_____ vezes ao ano)
- ⑥() Outros: _____
- ⑦() Não foi trabalhado este tema na escola

4. Drogas ilícitas:

- ①() Tema inserido na disciplina
- ②() Distribuição de material de leitura extra
- ③() Palestra de profissional externo (qual a frequência?_____ vezes ao ano)
- ④() Atividade extra-curricular, oficina, com prof. da escola (_____ vezes ao ano)
- ⑤() Atividade extra-curricular, oficina, com profissional externo (_____ vezes ao ano)
- ⑥() Outros: _____
- ⑦() Não foi trabalhado este tema na escola

5. Cigarro:

- ①() Tema inserido na disciplina
- ②() Distribuição de material de leitura extra
- ③() Palestra de profissional externo (qual a frequência?_____ vezes ao ano)
- ④() Atividade extra-curricular, oficina, com prof. da escola (_____ vezes ao ano)
- ⑤() Atividade extra-curricular, oficina, com profissional externo (_____ vezes ao ano)
- ⑥() Outros: _____
- ⑦() Não foi trabalhado este tema na escola

6. Álcool:

- ①() Tema inserido na disciplina
②() Distribuição de material de leitura extra
③() Palestra de profissional externo (qual a frequência? _____ vezes ao ano)
④() Atividade extra-curricular, oficina, com prof. da escola (_____ vezes ao ano)
⑤() Atividade extra-curricular, oficina, com profissional externo (_____ vezes ao ano)
⑥() Outros: _____
⑦() Não foi trabalhado este tema na escola

Informações gerais sobre os alunos:

⑦ Quantos alunos, em média, entram e saem no meio do ano letivo: entram _____; saem _____

⑧ Por favor, para as perguntas a seguir, pensar nos últimos 2 anos, a contar a partir de hoje e dentro do do seu conhecimento:

1-Alguma aluna ficou grávida ou, para os meninos, teve sua parceira grávida antes do aluno terminar o ensino médio?	①() Sim	②() Não	③() Não sei
2-Algum(a) aluno(a) fez uso de drogas ilícitas?	①() Sim	②() Não	③() Não sei
3-Algum(a) aluno(a) teve problema com uso abusivo de drogas ilícitas?	①() Sim	②() Não	③() Não sei
4-Algum(a) aluno(a) fez uso de cigarro?	①() Sim	②() Não	③() Não sei
5-Algum(a) aluno(a) ingeriu bebida alcoólica?	①() Sim	②() Não	③() Não sei
6-Algum(a) aluno(a) teve problema com ingestão abusiva de bebida alcoólica?	①() Sim	②() Não	③() Não sei

⑨ Quantos alunos têm seu próprio telefone celular? _____

⑩ Quantos alunos viveram longe de seus pais por mais de 1 ano ? _____

⑪ Para sua escola, que temas que você acharia importante trabalhar e qual o tipo de atividade sugerida: _____

⑫ Qual o tema mais importante, em relação aos alunos, para sua escola hoje? _____

Muito obrigado pela colaboração. Vamos trabalhar o máximo para que esses dados resultem em atividades futuras tendo como resultado a saúde e bem-estar dos nossos adolescentes.

Maiores Informações:
NPO CRIATIVOS – Centro de Referência e Suporte em HIV-DST
TEL : 045-360-2094 FAX : 045-360-2093 e-mail: elisaai@beige.ocn.ne.jp

添付資料(1) ブラジル人学校を対象としたエイズ教育実態把握調査票(省略 日本語版)

一般情報:

1- 記入日付 2- 学校名 3- 記入者名 4- 電話番号 5- FAX 番号 6- E-mail

① 貴方の学校の学期構成を教えてください

1. 授業
2. 休み

② 生徒数

1. 基礎教育
2. 高校

③ 父母参加ミーティングの回数と時期

④ 父母の参加率 ± _____ %

学校で教えているテーマ:

1. STD/Aids:	①() はい ②() いいえ
	a- はいの場合何年生から? _____
2. セクシュアルヘルス:	①() はい ②() いいえ
	a- はいの場合何年生から? _____
3. 思春期での妊娠:	①() はい ②() いいえ
	a- はいの場合何年生から? _____
4. 違法薬物:	①() はい ②() いいえ
	a- はいの場合何年生から? _____
5. タバコ:	①() はい ②() いいえ
	a- はいの場合何年生から? _____
6. アルコール:	①() はい ②() いいえ
	a- はいの場合何年生から? _____
7. その他: _____	

⑥ どのような形式で教えていますか？(複数回答)

1. STD/Aids:

- ①() 教科書に載っているもの
- ②() 教科書以外のプリント
- ③() 外部教師の講演会 (頻度_____)
- ④() 学校の先生による教科書外の活動 (頻度_____)
- ⑤() 外部講師による活動(頻度_____)
- ⑥() その他: _____
- ⑦() 教えていない

2. セクシュアルヘルス

- ①() 教科書に載っているもの
- ②() 教科書以外のプリント
- ③() 外部教師の講演会 (頻度_____)
- ④() 学校の先生による教科書外の活動 (頻度_____)
- ⑤() 外部講師による活動(頻度_____)
- ⑥() その他: _____
- ⑦() 教えていない

3. 思春期での妊娠:

- ①() 教科書に載っているもの
- ②() 教科書以外のプリント
- ③() 外部教師の講演会 (頻度_____)
- ④() 学校の先生による教科書外の活動 (頻度_____)
- ⑤() 外部講師による活動(頻度_____)
- ⑥() その他: _____
- ⑦() 教えていない

4. 違法薬物:

- ①() 教科書に載っているもの
- ②() 教科書以外のプリント
- ③() 外部教師の講演会 (頻度_____)
- ④() 学校の先生による教科書外の活動 (頻度_____)
- ⑤() 外部講師による活動(頻度_____)
- ⑥() その他: _____
- ⑦() 教えていない

5. タバコ:

- ①() 教科書に載っているもの
- ②() 教科書以外のプリント
- ③() 外部教師の講演会 (頻度_____)
- ④() 学校の先生による教科書外の活動 (頻度_____)
- ⑤() 外部講師による活動(頻度_____)
- ⑥() その他: _____
- ⑦() 教えていない

6. アルコール:

- ①() 教科書に載っているもの
- ②() 教科書以外のプリント
- ③() 外部教師の講演会 (頻度_____)
- ④() 学校の先生による教科書外の活動 (頻度_____)
- ⑤() 外部講師による活動(頻度_____)
- ⑥() その他: _____
- ⑦() 教えていない

生徒に関する一般情報:

⑦ 平均的に、1年間で他の学校に移動する生徒数と転校してくる生徒数を教えてください。

⑧ 過去2年のことを考えて、教えてください:

1-高校を終わる前に妊娠した(させた)生徒はいましたか?	①() はい	②() いいえ	③() わからない
2-違法薬物を使用した生徒はいましたか?	①() はい	②() いいえ	③() わからない
3-違法薬物を乱用した生徒はいましたか?	①() はい	②() いいえ	③() わからない
4-タバコを吸った生徒はいましたか?	①() はい	②() いいえ	③() わからない
5-飲酒した生徒はいましたか?	①() はい	②() いいえ	③() わからない
6-飲酒トラブルを起こした生徒はいましたか?	①() はい	②() いいえ	③() わからない

⑨ 携帯を持っている生徒数? _____

⑩ 1年以上両親と離れて暮らしたことがある生徒数? _____

⑪ 現在、貴方の学校にとって、どのようなテーマを取り上げたいですか?そしてその方法は?

⑫ 貴方の学校の生徒にとって、どのようなテーマが重要だと思いますか?

ご協力ありがとうございました

添付資料（3）学校における思春期の生徒を対象としたアンケート調査（2007年）

☺ Gostaríamos de saber um pouco sobre você. ☺

1- Qual o seu sexo? ① () Feminino ② () Masculino

2- Qual a sua idade? _____ anos.

3- Em que série você está? _____

4- Sobre você e o Japão:

① () Nasci no Japão e nunca fui ao Brasil.

② () Nasci no Japão e fui ao Brasil algumas vezes somente a passeio.

③ () É a primeira vez que moro no Japão e estou há _____ anos e _____ meses.

④ () Já morei no Japão outras vezes, e agora estou há _____ anos e _____ meses.

A) Se você já veio antes, ou se nasceu aqui mas morou no Brasil, escreva quanto tempo que você já morou no Japão anteriormente:

① A 1ª vez: morei dos _____ anos até _____ anos

② A 2ª vez: morei dos _____ anos até _____ anos

5- Você já se mudou dentro do Japão? ① () Sim: _____ vezes ② () Não ③ () Outros _____

6- Você já estudou em escola japonesa?

① () Sim → (① □ shouggakou: da _____ à _____ série; ② □ chuuggakou: _____ à _____ série.)

② () Não, sempre estudei em escola brasileira.

③ () Outros _____

7- Nas situações abaixo, qual a língua que você tem mais facilidade? Assinale em: Japonês se você tem mais facilidade na língua japonesa; Português se tem mais facilidade em português; Ambos, se tem a mesma facilidade tanto em japonês como português; e Não se adequa, se a situação não cabe a você.

	Japonês	Português	Ambos	Não se adequa
① Escrever uma carta, redação.	① ()	② ()	③ ()	④ ()
② Ver e entender noticiário de TV.	① ()	② ()	③ ()	④ ()
③ Ver e entender novela ou filmes.	① ()	② ()	③ ()	④ ()
④ Ler e entender jornais, revistas e livros.	① ()	② ()	③ ()	④ ()
⑤ Ler e entender revista em quadrinhos, "mangá".	① ()	② ()	③ ()	④ ()
⑥ Conversar sobre coisas pessoais.	① ()	② ()	③ ()	④ ()
⑦ Conversar com amigos.	① ()	② ()	③ ()	④ ()
⑧ Conversar com irmãos(ãs).	① ()	② ()	③ ()	④ ()
⑨ Conversar com os pais	① ()	② ()	③ ()	④ ()

8- Você já morou longe da sua mãe ou do seu pai? Exemplo: um deles no Japão e você no Brasil.

- ① () Morei longe do meu pai (dos meus _____ anos até _____ anos de idade)
- ② () Morei longe da minha mãe (dos meus _____ anos até _____ anos de idade)
- ③ () Morei longe dos dois ao mesmo tempo (dos meus _____ anos até _____ anos de idade)
- ④ () Atualmente, moro longe da minha mãe (desde os meus _____ anos de idade)
- ⑤ () Atualmente, moro longe do meu pai (desde os meus _____ anos de idade)
- ⑥ () Nunca morei longe dos meus pais
- ⑦ () Outros: _____

9- Atualmente, com quem você mora? (marque todos os que moram com você)

- ① () Minha mãe
- ② () Meu pai
- ③ () Meus irmãos(ãs)
- ④ () Meus parentes
- ⑤ () Meu namorado(a)
- ⑥ () Namorado da minha mãe
- ⑦ () Namorada do meu pai
- ⑧ () Minha madrasta
- ⑨ () Meu padrasto
- ⑩ () Outros: _____

10- Quando você está com problemas, a quem você recorre, com quem você pode contar?

(pode marcar mais de 1 resposta)

- ① () Minha mãe
- ② () Meu pai
- ③ () Meus irmãos
- ④ () Amigos(as)
- ⑤ () Parentes (tio, primo)
- ⑥ () Minha madrasta
- ⑦ () Meu padrasto
- ⑧ () Professores da escola
- ⑨ () Não tenho a quem recorrer
- ⑩ () Outros: _____

11- Você tem alguém que você admira muito?

- ① () Sim (quem? _____)
- ② () Não
- ③ () Não sei

12- Você se sente satisfeito(a) com sua vida neste momento?

- ① () Totalmente satisfeito(a)
- ② () Muito satisfeito(a)
- ③ () Mais ou menos
- ④ () Um pouco insatisfeito(a)
- ⑤ () Totalmente insatisfeito(a)
- ⑥ () Não sei

13- Quais os seus sonhos para o futuro? _____

14- O que você está fazendo agora para poder realizá-los? _____
